

らい
来
ぶ
ら
り
83

大学図書館の現在

大学図書館は高等教育を担う役割上、専門的な本が多いのは当然ですが、本学では、それぞれの学部、学科にも図書センターや図書室などがあって、必然的に専門書はそこに大部分が収納され、それ以外の教養書を中心とした本や貴重な書籍、資料（たとえば『伊能図』*など）が大学図書館にあるというのがおまかなかたちです。

図書館に来館する人の目的はさまざまです。本を読む、調べるということが一番でしょうが、他大学の資料を得るために来館する人もいます。なかには静かな環境で睡眠を補うという人もいるでしょう。アメリカの大学図書館は24時間オープンの所が多いのですが、家賃を済約するために図書館に寝泊まりする方がいたと聞いたこともあります。大学教授をしていた漱石は学内の人間関係が煩わしくて図書館に逃げ込んだと書いています。

ところで現在かなりの来館者がパソコンでデータを調べるために利用しています。「電子図書館」(e-library)と言うように、デジタル化されたデータを読むわけです。本学図書館では、「データベースNAVI」で各種の新聞、雑誌、論文、事典などを提供しています。あるいはインターネットを使って世界の図書館の書誌検索までできます。これは時代に呼応した図書館の変化、あるいは進化です。進化ということでは、他大学図書館の効率化、省力化は目覚ましく進んでいます。

IT(情報技術)を駆使した自動書庫などがその例ですが、ここでは最新の「ラーニングコモンズ」(learning commons)を紹介します。これはアメリカが発信源の、共同で学ぶスペースです。学生同士がグループでくつろいで研究する場です。今までの机と椅子だけの堅苦しいイメージではなく、コーヒーやお茶を飲むことくらいは許容されていますし、ソファなども置いてあります。さらには図書館員や教員が学生の学習支援をする場でもあります。現在、本学図書館でもレポートや論文の書き方、さらに資料の調べ方の手助けを行っていますが、それがさらに、このラーニングコモンズの環境が提供できれば定着化することになります。

本学図書館は名建築家前川國男が設計した歴史的建造物(1963年竣工)ですが、当時と比べて学生数が倍増したこともあり、書庫も狭く、というより、現在満杯で、限界に来ていることは否めません。上記のような時代に即応したスペースを得ることは残念ながら困難な状況です。他大学の図書館にあるような映像ブースや語学研修ブースを作る余地もありません。幸い、懸案だったアスベスト除去工事が終わり、照明も新しくなり、さらに机、椅子なども新しくなったおかげで、ずいぶん明るくなり、居心地よくなりました。たくさんの学生の来館をお待ちしております。

*貴重書コレクション

『大日本沿海輿地全図』 大学図書館 291.03/46

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/glim/collection/rare/inozu.html>

*データベースNAVI

<http://glim-els.glim.gakushuin.ac.jp/source/dbnavi/>

(図書館長 塩谷清人／文学部教授)

論文入手が便利になります!

GLIM/NAVI (論文入手支援システム)

2009年4月から始まった新サービス！雑誌論文の入手がとっても楽になります。

これまで、電子ジャーナルになっているか、雑誌そのものが本学にあるか、それとも他大学にコピーを依頼するか、色々探した上で入手しなければならなかつた論文。コピーしたら実は本学で持っていた、Web上で見られた等々、もったいないことになっていませんでしたか？すべてはこのGLIM/NAVI（論文入手支援システム）が解決してくれます！

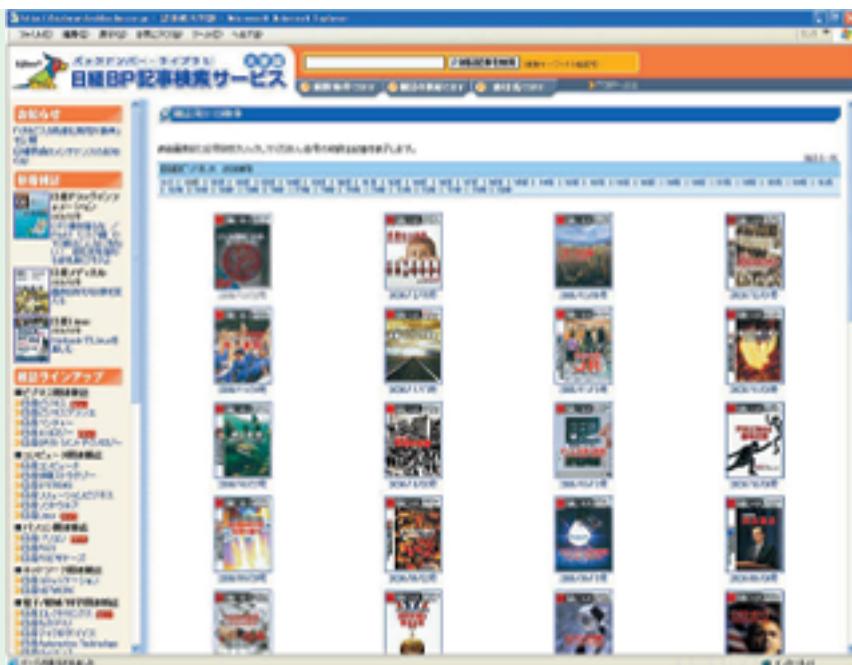


Google Scholarで論文を検索した場合（他にも数種のデータベースで使用できます*）、結果をいちいちクリックしてみないと見られるかどうか分かりません。見られないものも、実は本学で契約済みの電子ジャーナルで、正しい経路でアクセスすれば見られたものかもしれません。このような問題を解決し、見られるものは確実に表示し、またボタン一つで現物が本学にあるかを検索したり、レフアレンスを通して複写依頼をしたりすることが可能なのがこのナビゲーションウィンドウ。その雑誌が本学でどのような手続きを踏めば入手できるのかがすぐに分かります。

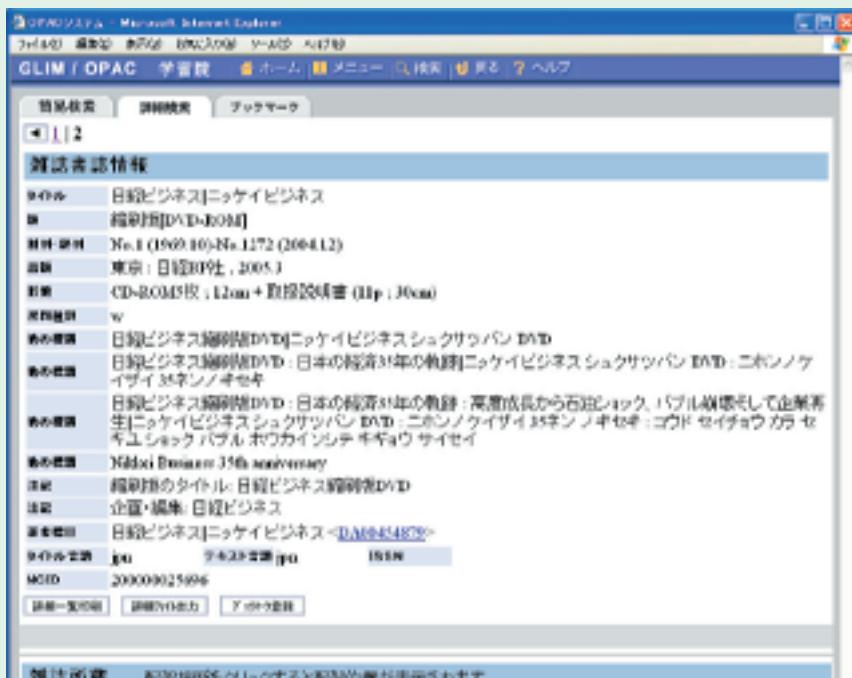
The screenshot shows the GLIM/NAVI search results for a specific academic article. At the top, it displays the search query and the number of results found. Below the search bar, there are links to "Scholar 検索オプション" and "Scholar ヘルプ". The main search results list includes the title of the article, the journal name ("日経ビジネス"), the volume and page numbers, and the date of publication ("2009年6月号"). A red circle highlights the URL "http://hdl.handle.net/2324/10000290481" which links to the document's page in the library's digital repository. Another red circle highlights the "Full Text" link under the "View Details" section. Further down, another red circle highlights the "GLIM/OPAC" link, which provides direct access to the library's catalog. At the bottom of the page, there is a copyright notice for Gakushuin University Library.

* たとえば、本学で契約しているJSTOR、First Search、Ebsco Host、MathScinetなどがあります。

なお、学内からの検索が対象であり、自宅等の外部からの検索には対応していません。



もし論文へのリンクが表示されていた場合、それをクリックすればすぐに本文にアクセスできます。雑誌へのリンクをクリックすれば、その雑誌の電子ジャーナルポータルページにアクセスできます。



GLIM/OPAC

もしナビゲーションウィンドウが「電子ジャーナルはないよ」と教えてくれた場合でも、ボタン一つで、現物を本学の図書館で所蔵しているかどうかを検索してくれます。GLIM/OPACへのリンクボタンがついているので、それをクリック！



文献複写申込

My GLIMから複写申込が可能な方なら、GLIM/OPACでヒットしなかった場合でも、ボタン一つで論文タイトル、著者名、雑誌名、ページ数などの必要な情報を転記した形で文献複写申込画面を表示してくれます。このように、あなたの論文入手を最後までナビゲートしてくれるのがこのGLIM/NAVI（論文入手支援システム）の特徴なのです。

大学図書館リニューアル

まず、図書館の入口にある展示ケースをリニューアル。これで学習院の貴重な資料を安心して展示できます。
なかに仕切りがありませんから、美しい絵巻物や一枚物の地図など大きく広げて観ることができます。
さて、どの貴重書から展示しましょう。



その奥に、波打ったソファーが二台（一対）。ゆっくり新聞を読んでください。このカーブは製造元の特許製品。居心地は良いはずです。



雑誌室の椅子は明るい緑茶色。座席数を確保するため配置に苦労しましたが、部屋全体が明るくなりました。
図書館が「ワード一変わった」と感想をいただけると嬉しいです。



さらに、1階・2階・3階の閲覧机を新しくしました。隣席や前の席が気にならないよう、衝立を取り付けました。だけど、ゆったり平机を使うのがお好きな方には平机をどうぞ。両方用意しています。



■大学図書館整理課／甲斐静子

□「来ぶらり」のバックナンバーは(<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/glim/collection/library/raiburari.html>)で公開しています。

来ぶらり No.83 2009年4月1日発行

発行責任者：塩谷清人 編集委員：米田岳史・奥富美智代

学習院大学図書館 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

03-3986-0221 (代) 内2396 (レファレンス) 内2397 (閲覧) 03-5992-1009 (閲覧直通)